

第6回 SJAC講演会を開催

ー海外ジャーナリストの見た日本の宇宙開発ー

(一社)日本航空宇宙工業会は、去る3月31日(火)10時より当工業会会議室にて平成26年度第6回SJAC講演会を開催した。

講演会では、米国Space NewsとDefense News記者のPaul Kallender氏を迎えて「海外ジャーナリストの見た日本の宇宙開発」と題して講演頂いた。

当日は、NEC、IAをはじめとする会員企業等から約30名が参加し、活発な質疑が行われた。

Paul Kallender氏は、1995年よりSpace Newsの日本担当として日本の宇宙開発に携わる政府・業界・学会及びJAXAの主要な関係者にインタビューを行い、多くの記事を作成してきている。また、2013年2月発行のSpace PolicyのVolume29, Issue 1では「Enacting Japan's Basic Law for space activities: Revolution or evolution?」を執筆している。



講師：Paul Kallender氏



講演会会場の状況

Paul Kallender氏が講演で強調した主要な点は下記の通りであったが、詳細に関しては別途、同氏から寄稿して頂くこととした。

『日本は宇宙基本法の制定、宇宙基本計画の策定などを行い、限られた予算の中で宇宙探査やISS等の国際貢献を含めて、着実に宇宙開発を進めており、宇宙を魅力的な分野としている。

さらに、宇宙開発だけでなく宇宙利用分野の促進や宇宙産業基盤の強化をうち出している。また、安全保障分野での宇宙利用も重要視しており、昨今ではSSA（Space Situational Awareness：宇宙状況認識）分野では日米協力

の下で進展がみられるようになった。新たな宇宙基本計画で示された、1年間に5,000億円は政府予算として日本にとっての適切な金額である。但し、安全保障面でのMDA（Maritime Domain Awareness：海洋状況認識）分野では、具体的な計画が無いので早期の具体化が望まれる。

世界の中で第四番目に独自の衛星を上げた歴史を持つ日本は、今日でも世界の宇宙先進国の中で大きな位置付けとなっており、日本の宇宙産業の衰退は世界の宇宙開発にとっても大きな後退となる。日本は宇宙開発において世界の中で一定の役割を果たすことが期待されている。』

〔(一社)日本航空宇宙工業会 技術部部长 宇治 勝〕